

豊橋の中1死亡ボート事故

「市は謝罪を」遺族要求

2010年6月に浜名湖で起きたボート転覆事故で、亡くなった豊橋市立章南中学校1年、西野花菜さん(当時12)の遺族が16日、事故の責任は学校を設置した市にもあるとして、佐原光一市長に謝罪を求める申入書を提出した。謝罪がない場合は、法的措置を検討するという。



今年1月に国の運輸安全委員会が事故の調査結果を発表した。これを受け、遺族は「市にも法的責任がある」として申し入れた。申入書によると、ボート訓練は「学校の正課の授業であり、教育活動そのもの」として、学校に安全配慮義務があったと主張。ボートが出港した際は1時間24分の「土砂降り」の雨だ

「施設に丸投げしていたから学校側に責任がないと言っているのはおかしい」。この訴えは、事故から1年9カ月を経ても届いていない

「学校側にも責任」

「静岡県立三ヶ日青年の家」の過失は「市の過失と同視される」としている。市はこれまで、「『三ヶ日青年の家』側に過失責任がある」との姿勢を崩していない。佐原市長は「親族を亡くされた気持ちをしっかり踏まえて対応したい」と述べた。(井上充昌)

市教育委員会は「西野さんの思いを受けて誠意を持って対応してきた」と話す。校外学習の安全管理体制についての指針を作成し、昨年4月からホームページ(HP)で公表。市民から意見を募集している。今年1月、学校の責任には触れていない運輸安全委員会の調査結果が公表された後、市教委はこの指針を見直す方針を示した。HPに載せた指針には、市民からの意見はこれまで1件も

- 遺族側が指摘する主な教諭や校長らの責任
- ・事前に乗船者名簿を提出すれば、早い段階で行方不明者に気づけた
- ・インストラクターが乗らない「自主艇」を事前に拒むべきだ
- ・土砂降りの雨の中、出港時に訓練を中止すべきだ
- ・他の船が行ったように、船内に入った雨水を排水すべきだ
- ・船体が傾いた状況で、出港から35分後の教諭の救助要請は遅すぎた
- ・引航の際、教諭はかじの操作を代わってもらうべきだ

寄せられていない。申し入れ後の会見で花菜さんの父友章さん(52)は「『三ヶ日青年の家』と静岡県は再発防止もできることを率先してやっているが、豊橋は全然やっていない」と憤った。「娘は授業中に先生の言われた通りにして命をなくした」。教育現場は責任をどう考えているのか。学校設置者の同市の見解を問うために市長に謝罪を求めた。友章さんは「教育現場がやるべきことをやらなかったから娘が死んだことをわかってほしい」と話し、市教委の対応については「どこを反省して今後どうすべきかが伝わってこない」と不満を募らせる。「責任を認めて教育現場がスキルを上げないと、再発防止はできない。何のために娘が死んだかわからない」と訴えた。(山田雄介)

覆転ポ一ト

「豊橋市は謝罪を」

遺族、市長に申し入れ

浜松市の浜名湖で二〇一〇年六月、野外教育活動中のポ一トが転覆し、豊橋市章南中学校一年の西野花菜さん(当時12歳)が亡くな



佐原光一市長に申し入れ書を渡す西野友章さん(左)と豊橋市役所で

2012.3.17 毎日新聞

(第3種郵便物認可)

浜名湖ポ一ト事故

豊橋市に謝罪求める

遺族「授業中に命なくした」

静岡県の浜名湖で10年6月起きた豊橋市立章南中一年生の手こぎポ一ト転覆事故で、亡くなった西野花菜さん(当時12歳)の父友章さん(52)が16日、豊橋市の佐原光一市長に、市としての責任と謝罪を求め、市として謝罪し、友章さんは「娘は学校の授業の中で命をなくした。市はなぜ命を守れなかったのか、守るために何をし



佐原市長(右)に謝罪申し入れ書を提出する西野友章さん(左)と豊橋市役所で

とされている。訓練実施会社の過失は市の過失と同じとみなされ、会社の責任は市の責任となるとしている。申し入れ書提出後の記者会見で、友章さん

は「要求が満たされない場合は、法的な場で第三者に判断してもらえない」と訴訟も視野に入れていることを明らかにした。

【丸林康樹】

市役所で記者会見した友章さんは、悪天候にもかかわらず学校がポ一ト訓練の中止を求めなかった点を指摘。同乗した教諭が船内にたまった雨水を船外に

かき出すなど生徒の安全を守るための義務を果たさなかったと断じた。学校の設置者である豊橋市は、浜名湖で実際の訓練をした三ヶ日青年の家や静岡県教育委員会などとともに、賠償責任を負うと主張した。

友章さんは「学校の授業で何の落ち度もない花菜が命を落とした。豊橋市は組織として謝罪してほしい」と話した。市の謝罪がない場合、民事提訴を検討することも示唆し

た。

佐原市長は「お悔やみを申し上げるが、市は事故を起こした静岡側や教員の任命権がある県教委と立場が違う。申し入れ書をよく読んで対応したい」と話した。(池内琢)

豊橋市長に謝罪求める申入書

南中のボート事故で西野さん

「娘の死を無駄にせぬよう」

市側の謝罪意思が認められない場合

司法の場で責任明確に

静岡県浜松市の浜名湖で2010年6月、えい航中の豊橋市立章南中学校の生徒ら20人が乗った手こぎボートが転覆し、1年・西野花菜さん(当時12歳)が死亡した事故で、父親の西野友章さんが16日、豊橋市役所を訪れ、佐原光一市長に謝罪を求めた。謝罪の要請は文書で行い、1カ月以内の回答を求めた。西野さんは「謝罪意思が認められなければ、訴訟を通して司法の場で市の責任を明らかにしたい」と話した。

(高石昌良)

西野さんは小林修弁護士、菊地令比等弁護士を伴って来庁。市長室で佐原市長と会い、西野さんおよび妻の光美さんを申し入れ人と

する謝罪申入書を佐原市長に手渡した。西野さんは、「カッター指導した三ヶ日青年の家も、(同家を設置した)静岡県も謝罪し

てくれた。しかし、豊橋市からは謝罪してもらっていない。ぜひ謝罪してほしい」と要望した。これに対し佐原市長は、「学校の設置は市

だが教育内容に関しては市教委が所管している」と説明した上で「申入書をしっかりと熟読して対応する」と答えた。同書はA4判7枚

で、内容のほとんどは1月27日に国交省運輸安全委員会が公表した事故調査報告書を引用する形で、学校長、教諭に安全配慮義務違反があったと指摘した。

さらに同書は、訓練を委託した豊橋市と実施した三ヶ日青年の家の関係に言及。県立高校生の力又「事故を巡って、インスタラクターや派遣会社だけでなく県にも賠償責任を求めた判決(東京地裁08年10月29日)を引き合いに「豊橋市の責任は

明らかだ」とした。西野さんは謝罪を求めた理由を「娘の死を無駄にしないため」と説明。豊橋市は事故責任のすべてを青年の家に負わせている。この姿勢は、きつと次の犠牲者を生むと付け加えた。「謝罪意思が認められれば、賠償金に関しては和解に応じる用意もある」と西野さん。しかし認められない場合は市の責任をはっきりさせるために、民事訴訟に訴え司法の場ではっきりさせたいとしている。



佐原市長(右)に謝罪申入書を手渡す西野さん(左)＝豊橋市役所市長室で

(第3欄郵便物認可)

豊橋市に謝罪求める

ボート転覆 女生徒死亡 父親、訴訟も辞さず

一昨年6月、浜名湖（浜松市）で起きた豊橋市立章南中のカッターボート訓練中の転覆事故で、死亡した西野花菜さん（当時1年）



佐原市長（右）に謝罪申し入れ書を手渡す西野さん

の父親の友章さん（52）が16日、豊橋市役所を訪れ、市に対し謝罪を求めて佐原光一市長に申し入れ書を手渡した。1か月以内に文書での回答を求めている。

申し入れ書は、事故に対する学校側の責任について「保護者は生徒を学校に預けており、教育活動で生徒の安全を確保する義務は学校にある」としたうえで、「校長は土砂降りの状況で訓練中止を申し入れるべきだった」「教諭が生徒の行方不明を消防に伝えていれば死は回避できた」などと、学校設置者としての市の責任を指摘している。

佐原市長は「なぜ市が責任を問われるのかわからな

い」などとしながら、「熟読し、教育委員会と相談して対応する」と述べた。この後、記者会見した友章さんは「市は公の場で謝罪し、償ってほしい」とし、謝罪がなかった場合は民事訴訟に訴える考えを明らかにした。

東日新聞
TONICHI NEWS
http://www.tonichi.net
発行者／東海日日新聞社
〒440-0874 愛知県豊橋市東山99番地 TEL.0532-64-2002 FAX.0532-63-7222 E-mail:tonichi@tonichi.net

地域を笑顔に
 ●「広報たはら」2年連続入賞 ①中学舞台のドラマでひまわりを「広報たはら」が県のコンクールで入賞を果たした。
 ●全国大会での健闘を誓う ②通学の不便これで解消！
 豊橋中央女子ソフトテニス部が全日本選手権大会に出場した。

常駐・巡回・雑踏警備
 ひったくりにご用心!!
株式会社 毎日ガード
 〒440-0821 豊橋市春日町一丁目117番地の1
 TEL.(0532)64-0361(代表)・FAX(0532)64-0361

豊橋市へ「公式謝罪を」娘の死回避できた

「市も当然責任」
 浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。

父・友章さん市長へ申入書

申入書では、大雨にもかかわらず校長が乗務を行ったことや担当教師がボートの傾きをそのままに航行を続けたことなどを問題視。このほか、あらかじめ乗客全席を作成し、事故後、早急に救助を要請していたら「花菜さんの死を回避し得た」と主張した。

娘の死回避できた

浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。



佐原市長(右)に要望書を手渡す西野さん(豊橋市役所市長応接室で)

期限は1カ月以内。申入書を受け取った佐原市長は「しっかりと読んで、教育委員会と話し合い、対応したい」と返答した。この後、西野さんは弁護士を通じて記者会見を開き、申入書の提出に至った経緯を説明した。国土交通省が今年1月に公表した事故原因に関する調査報告書を読み、豊橋市にも公的責任があるとの思いを述べたという。西野さんは「静かなる闘い」を続ける意向を示した。

「娘の死を無駄にしない。教育の場で問題提起をして、今後をどうするかを明らかにしてほしい」と申し入れの目的を明確にした。

「市がやるべきことをやらなかったから、娘が死んだのだと分かってほしい」と訴えた。

「娘の死を無駄にしない。教育の場で問題提起をして、今後をどうするかを明らかにしてほしい」と申し入れの目的を明確にした。

「市も当然責任」
 浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。

「市も当然責任」
 浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。

「市も当然責任」
 浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。

「市も当然責任」
 浜名湖のボート事故で、10年6月、豊橋市東南中学校の生徒ら20人が乗ったボートが転覆して1年生の西野花菜さん(当時12)が死亡した事故で、父親の友章さん(52)は16日、同市の佐原光一市長に市としての公式な謝罪を求めるとの書面を出した。